

夢きよく 道はるか



R3.10.28 文責 鈴木 仁

全国学力・学習状況調査(5月27日実施)の結果より

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しているものです。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語・算数/数学に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部」であることをご理解ください。

	国語	数学
山梨県(公立)平均正答率	66	57
全国(公立)平均正答率	64.6	57.2

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

結果を見ると、本校の国語の平均正答率は、県と同等、全国を上回っています。数学は、県、全国とも若干下回っています。大切なことは結果に一喜一憂することではなく、どの領域がよく、どの領域が落ち込んでいるかを分析し、今後の指導にいかすことです。特に3年生は進路決定までに、まだ時間が残されていますので、特に正答率の低かった傾向の問題を今後の授業で再度行い、つまずきを解消していきます。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

・よい傾向が認められる項目

- スマホ等の使い方について家の人と約束したことを守っている
- 自分にはよいところがある
- 将来の夢や目標を持っている
- 難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している
- 人の役に立つ人間になりたい
- 1, 2年生の授業で話し合い活動ができた
- 話し合い活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている
- 生活をよりよくするための話し合い活動ができ、努力するべき点に取り組んでいる

・課題と考えらえる項目

- 家で自分で計画を立てて勉強している
- 1, 2年生の時に、コンピュータなどICT機器をよく活用した
- コロナ禍で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じた

考 察

学習面については総合的にみれば全国、山梨県の水準にあると言えます。しかしながら国語と比較すると数学をもう少し頑張るとよいと考えられます。実際に正答率の低かった問題を次の項目で説明してありますので、同様な問題にチャレンジしてみるとよいでしょう。

質問紙調査から見ると、本校の生徒はほぼすべての項目で全国・県の状況を上回っており、特に、多くの生徒が自分のよさを感じ、将来に夢や目標を持っています。さらに困難なことにも挑戦する姿勢を持つことなど、「夢きよく道はるか」の教育指標がしっかりと根づいていることがわかります。また、授業や生徒会活動、学級活動で取り組んできた話し合い活動が定着し、話し合いに意義や達成感を持っています。

課題としては、1, 2年生の時にICT機器にあまりふれることができなかったと考えている生徒が多いようですが、今年度GIGA開きを行い、ICT機器にふれる機会が多くなったからこそ感じているように思います。休校中に感じた学習への不安の対応はもちろんですが、主体的に家庭学習に取り組んでいく姿勢も、さらに育んでいきたいと思えます。

2 各教科の分析結果

国語

学習指導要領の領域でいうと、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の正答率が、県、全国とも上回っています。その中でも、「相手や場に応じて適切に敬語を使う」問題については、大きく上回っています。「読むことは」県、全国ともわずかながら下回っていますが、そのうち「文中における語句の意味を理解する」問題については、大きく上回る一方、「場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する」、「登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する」問題については、下回る結果となりました。

今後は授業の中で多くの文章や作品にふれ、登場人物の様子に着目しながら、文章の叙述に対する意識を高めさせ、内容を理解する取組を継続して行っていきます。また、細かな心情描写、表現に気がつくよう、生徒同士がお互いの考えを発表し学び合う、話し合い活動を行います。

数学

学習指導要領の領域でいうと、「数と式」、「資料の活用」の正答率は、県、全国とほぼ同じであるのに対して、「図形」は、わずかに下回り、「関数」は下回っています。「図形」では、「扇形の中心角と弧の長さや面積との関係について理解している」、「関数」では「関数の意味を理解している」、「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」問題が下回っています。

「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる」、「相対度数の必要性の意味を理解している」問題については、県、全国とも大きく上回り、質問紙調査の結果からも本校の生徒は数学が嫌いなわけではありません。多くの問題に取り組むとともに、長文の設問等で特徴や数量の関係を読み取ったり、式や言葉で説明することに課題があるので、授業や家庭学習を通して、言葉の意味等の理解を深め、日常生活や社会の事象と関連づけながら、学びを深めていきます。

3 これからの学校としての取組について

学力向上の基本は「授業の受け方」にあります。今までもそうであったように授業を落ち着いた状態でしっかりと受けることが大切です。山梨県教育委員会は以前より「やまなしスタンダード」という授業づくりの7つの視点を定めています。

- ① 授業の始めに児童生徒に授業のめあて（目標）を示す
- ② 話し合い、討論、発表などの言語活動を効果的に取り入れている
- ③ 児童生徒は、他の人の話や発表に耳を傾けている
- ④ 児童・生徒はノートをとっている
- ⑤ 活用・探求など、学んだことを別の場面で使おうとしている
- ⑥ 授業や単元の終わりに、児童生徒がめあて（目標）を達成しているかを評価している
- ⑦ 家庭学習（宿題や課題）と授業が、有機的に結びついている。

この7つの視点のうち、今本校で重点的に取り組んでいることが②の「話し合い、討論、発表」の場を授業にできる限り取り入れることです。4人ほどのグループでお互いの考えを交流し、自分の考えを明確にすることや、「なぜそう思うのか」という考えの根拠を互いに聞くことで、自分の導き出した答えを根拠ある答えにする習慣をつけます。また、発表するときに「聴く人の立場」を理解することで、わかりやすい発表となるような練習をしています。今までは、ホワイトボードを使用して取り組んでいましたが、コロナ禍で小集団での話し合いを取り入れ難い状況もあり、タブレットを上手に活用したり、学級全体の話し合いでも上記のねらいが達成できるような取組を行っています。

つぎに⑦の家庭学習については、「自学ノート」を作成して学校で行ったことを家庭でまとめ、翌日に提出するというサイクルを行っています。良い取組例を提示するなどして生徒同士で学び合い、主体的な学習まで高めていくことを考えています。

この調査を見てもわかるように、現在、本校の生徒には活力があり、前向きに、かつ真摯に学校生活を送っています。もちろん614名の生徒が共同生活を送っていますので、課題がないわけではありませんが、そうした課題に対して取り組む中で、それぞれの生徒が日々成長しているように思います。コロナ禍であり、保護者の皆様や地域の皆様になかなか学校に足を運んでいただけないのは申し訳なく思います。「共感」することは力になります。ぜひ、生徒から学校の様子を聞いていただくなどして、本校のことに関心をもっていただき、生徒一人ひとりの成長のために、共に頑張っていきたいと思います。